

● シダ植物 3 態

この水田は田植どころか、まだ代かきもしていませんが、水が溜まっていますね。
現代の普通の水田とはずいぶん違っていますが、少し前まではこんな環境の、いわゆる湿田が多く見られました。
ここではいまの水田では見られないシダ植物が生えています。

<ナンゴクデンジソウ>

観察地の水田に、シロツメクサ（クローバー）によく似た水草が見られます。水面に浮いている葉は 4 枚の田の字型に分かれていますね。田の字なのでデンジソウという名前があります。



さて、半世紀も前でしたら、水田雑草の 1 種であるデンジソウと決めつけてしまうところです。しかし現在ではデンジソウは農薬や除草剤によって激減してしまいました。多くの県で絶滅危惧種とされ、生育地はごく限られており、保護されています。
デンジソウは夏緑性のシダ植物です。この時期に新しい葉を付けはじめて、去年の葉は枯れているはずですが。
しかしこの場所では古い葉も見られます。この時期にしっかり葉を付けているので、常緑性の近縁種、ナンゴクデンジソウであることがわかります。ナンゴクデンジソウは九州や沖縄に自生している水草です。



ナンゴクデンジソウ

ナンゴクデンジソウは近年園芸店で水草として売られています。ビオトープを作った際の池の水草として、また水槽の水草としても利用されています。このような水草が不用になり、近くの水田や水溜まりに放置されて、増えているものと考えられます。とくに関東地方の、農薬や除草剤の影響の少ない池や水田に時々見られます。

ナンゴクデンジソウは、秋になると水中をほふくする茎の葉の柄の基部に孢子嚢果をつけます。
一方のデンジソウは、葉柄の基部より上部のやや離れた位置に孢子嚢果をつけることで区別ができます。秋に観察してみましよう。

<イヌスギナ>

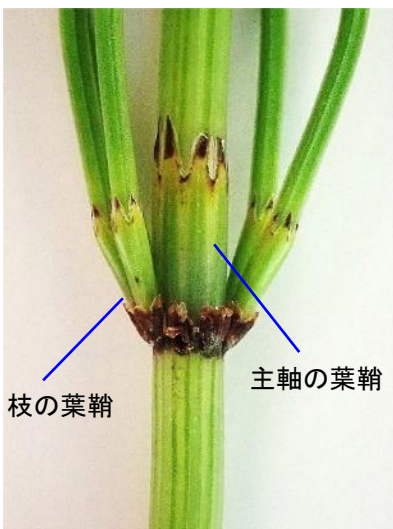
水田に、スギナがたくさん見られます。
よく見ると野原で見かけるスギナとようすが違いますね。スマートでまっすぐに立っています。
さらによく見ると、ところどころのスギナ（栄養茎）の先端に孢子嚢穂が付いています。
これはスギナの近縁種のイヌスギナです。どちらもシダ植物です。
イヌスギナは、水田の中や畦など湿った場所を好みます。スギナは道端や野原など生育環境が広いです。春に孢子を付けるつくしが出来ます。両種のちがいを調べてみましょう。



イヌスギナは全体がスマートな感じ



イヌスギナは栄養茎の先端に孢子囊穗がつく



イヌスギナ



スギナ

イヌスギナの主軸の節から生じる葉鞘は長く、枝のそれより長いです。スギナでは反対に枝の葉鞘の方が長いです。このことが生え方、全体の形に影響しているのですね。

またイヌスギナの地下茎は水気の多い土の中に生えているので、表面には毛がありません。しかし、スギナには細かい毛が密に生えています。

<コウヤワラビ>

畦に、葉をやや羽状につけた草が目につきます。多くのシダ植物のように細かな羽状葉ではなくシダらしくないのですが、これもシダ植物です。コウヤワラビといいます。

コウヤ〇〇〇と名が付く植物は、何種か知られていますが、和歌山県の高野山で発見されたり、多く分布しているので、名付けられました。このコウヤワラビも高野山に名が由来する高野蕨と図鑑があります。しかし高野山には分布していないと言われています。このコウヤは広野(荒野)から由来しているのではないかと考えるのがよいと思います。

多くのシダ植物が日陰を好むのですが、コウヤワラビは日向を好みます。

葉の裏に孢子をつけず、秋に別に孢子葉をつけます。秋の観察会で注意して見てください。

(村田威夫)



コウヤワラビ